

さとうみ
かがわの里海づくり

自然共生型の新しい社会と
ライフスタイルを目指して

香川県 環境森林部 環境管理課
課長補佐／水環境・里海グループリーダー

大倉 恵美



satoumi
project

Seto Inland Sea, Kagawa



- 瀬戸内海(閉鎖性海域)に面している
- 昔から、瀬戸内海と関わりながら暮らしてきた(道・畑・庭)

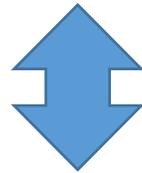
An aerial photograph of a coastal region featuring a long, multi-span bridge crossing a wide body of water. The bridge has several tall, dark pylons supporting its structure. In the foreground, a small, green island with a cluster of buildings is visible. The water is a deep blue-green, and the sky is a clear, light blue. In the distance, numerous other islands and peninsulas are scattered across the horizon, creating a complex archipelago. The overall scene is serene and expansive.

海から持続可能な暮らしや社会を考える

satoumi

里海とは

人が自然と適切に関わることで
多くの恵みをもたらす豊かな海のこと



無関心・ほったらかし

共有理念となる**ビジョン**の策定 (H25.9.7策定)

協議会4回、ワーキング11回、団体・個人
ヒアリング、ワークショップ2回、市町説明
会、庁内検討会等

香川大学生による
まんが「里海」ってなあに？」

かがわ
「里海」づくり
ビジョン

トップダウンとボトムアップ

【INDEX】

1. はじめに ~なぜ今、「里海」なのか
2. 目的 ~ビジョンのねらい
3. 現状と課題 ~香川の海の変遷
4. 目指すべき香川の「里海」づくりの姿
5. 取り組みの方向性／① 香川の「里海」づくりの特徴
／② 取り組みを推進するための6つのポイント





私たちの里海「瀬戸内海」を
人と自然が共生する持続可能な
豊かな海に・・・

《取組方針》

全県域で 県民みんな
山・川・里・海をつなげる

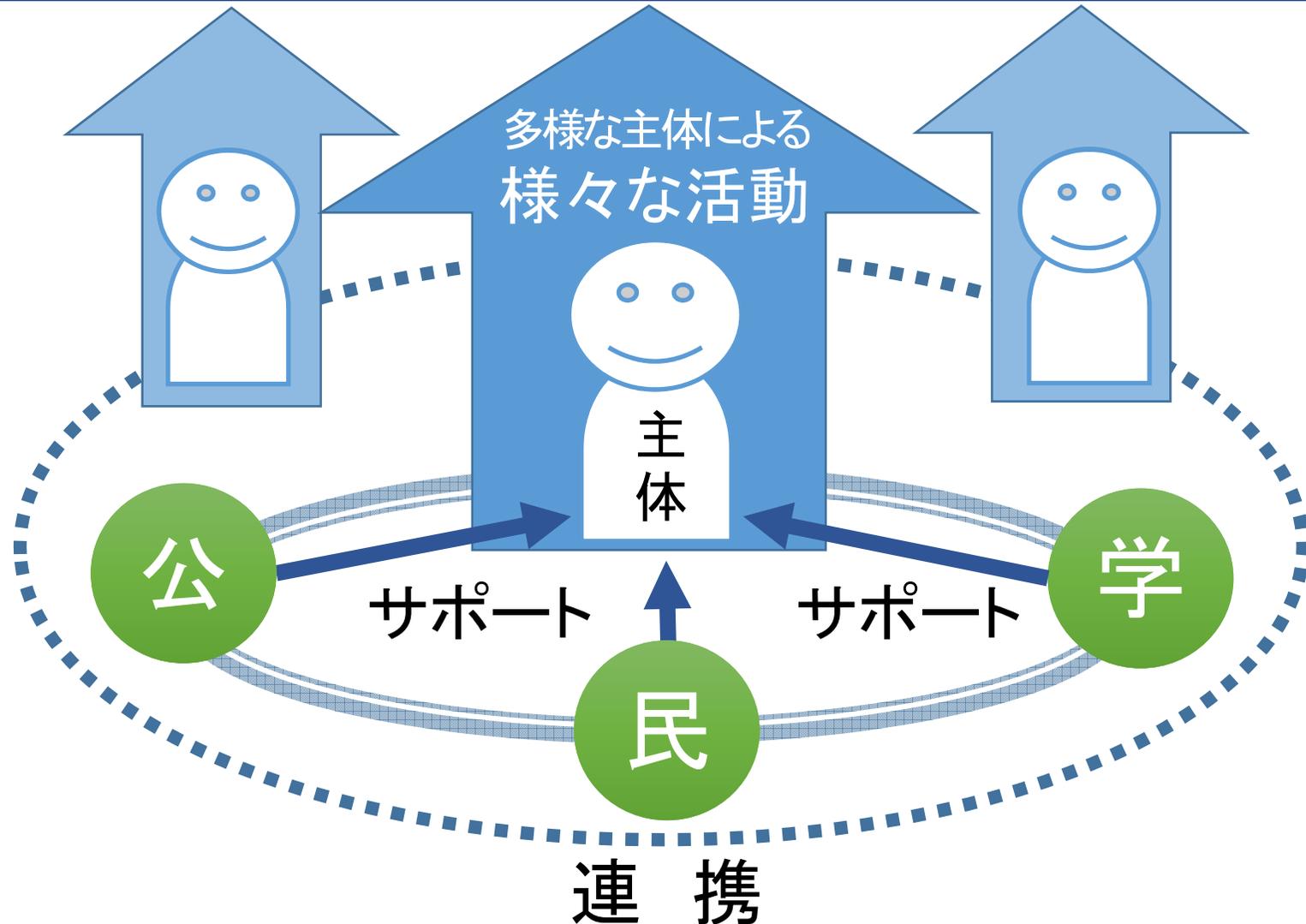
生活者として・社会の一員として



当事者を増やす

「里海」を活かした新しい価値創造

人と自然が共生する持続可能な海



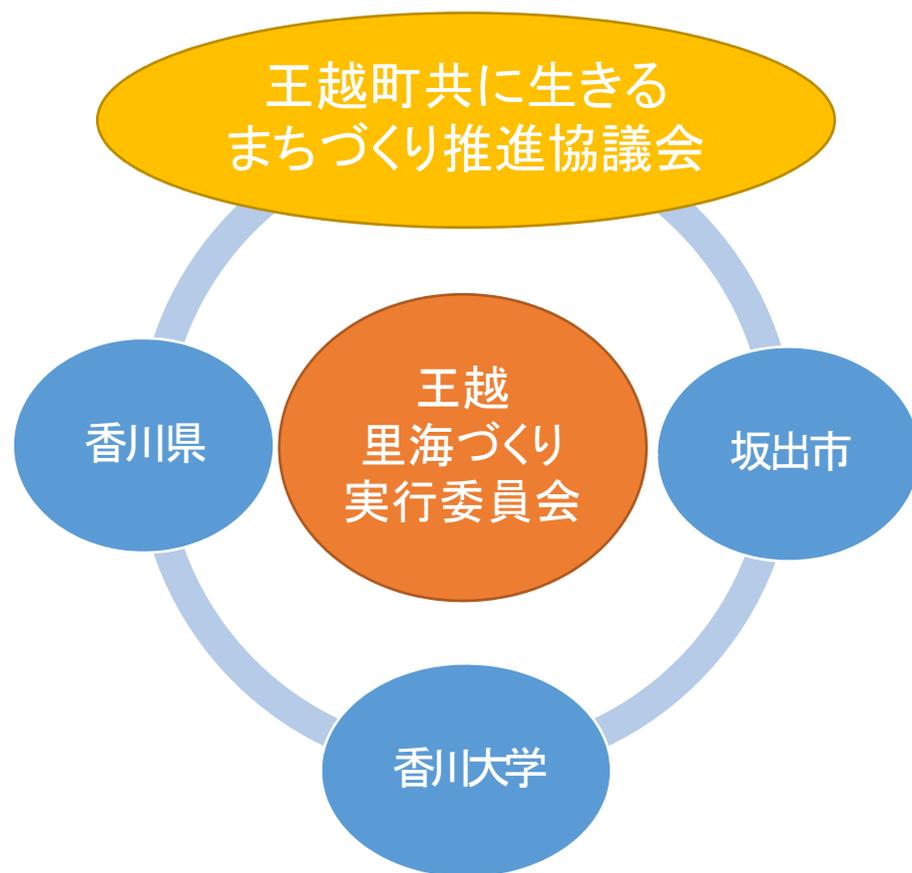
場づくりの事例：王越での活動拠点づくり

子どもたちを中心に、里海体験の機会を増やすため、里海・里山に囲まれ、過疎・高齢化が進む王越地区で、気軽に里海体験ができる活動拠点づくりを進めている。



H27.8.23 王越まるごと里海ツアー

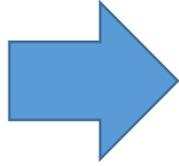
民・学・公連携の実行委員会により
有料の里海ツアーを満員御礼実施中



運営：里海プロガイド＋地元ガイド＋運営スタッフ

過疎・高齢化が進む、地元から見れば何もないまち

プロを派遣



＜王越里海づくり実行委員会＞

- ・王越町共に生きるまちづくり推進協議会
- ・香川大学
- ・坂出市
- ・香川県

- 活動拠点
- 商品開発（王越まるごと里海ツアー：有料）
 - ・ H26は6回開催し1527名の参加
 - ・ リピーター、キャンセル待ちあり

体験機会の提供、プロガイドの活躍の場、
交流人口・王越ファンの増加、関わる地元
住民の増加等



人・場づくりの事例：かがわ里海大学（仮称）

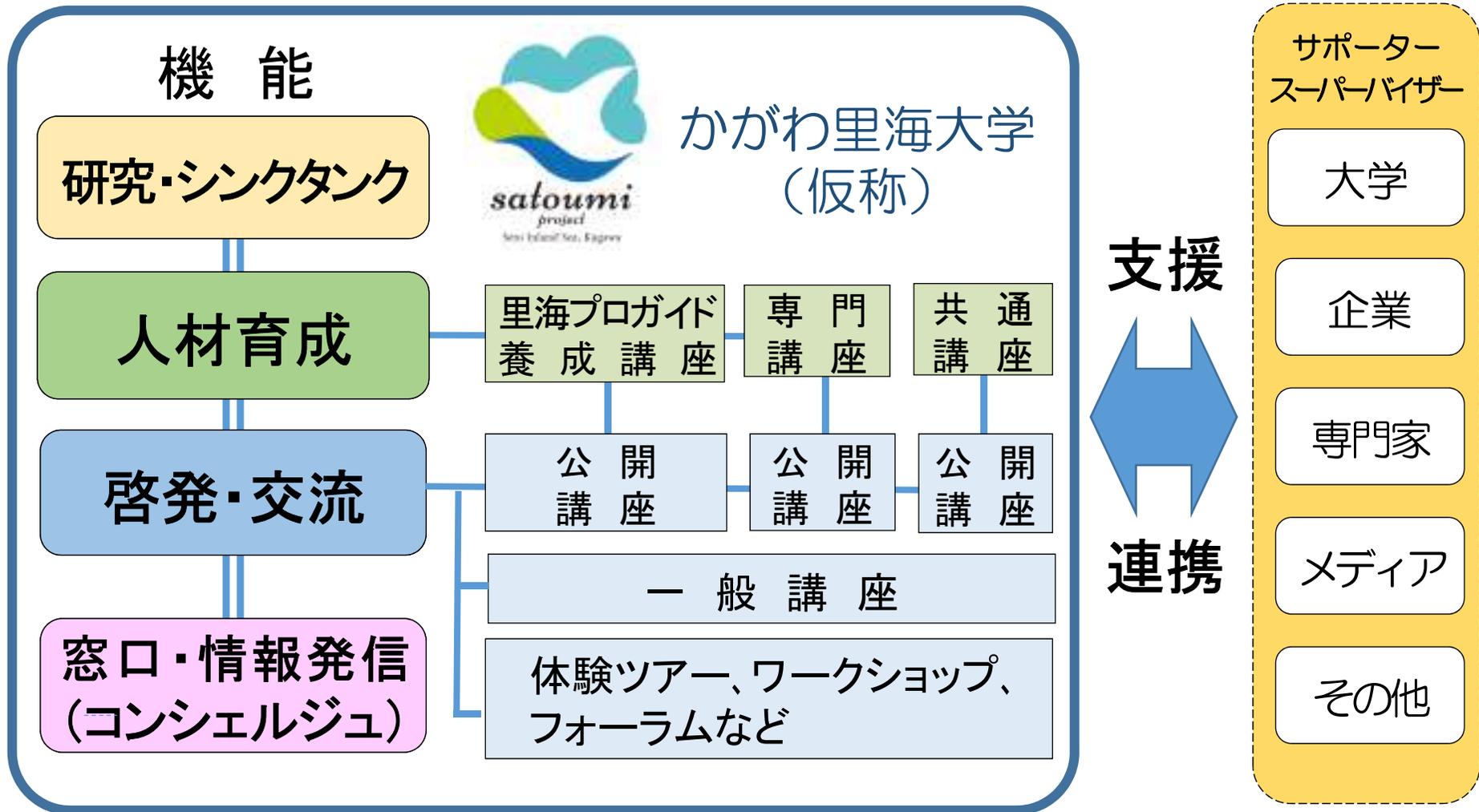
里海ツアーのプロガイドなど、里海づくりを牽引する「人」づくりと、人や活動の化学反応がおきる「場」づくりのため、かがわ里海大学(仮称)を平成28年春開校予定で準備中。



H27.10.4 里海大学プレ講座「里海プロガイド養成基礎講座」

来春開校！

かがわ里海大学（仮称）のイメージ（H27.9末現在）



- ファシリテーター、マーケッター、プロガイド、大学教授など多様な人材によるワーキングであり方や講座等を検討中
- 今年9～11月に、プレ講座として里海プロガイド養成基礎講座を開催（有料）



来春、かがわ里海大学(仮称)開校

- 里海プロガイドなど新たな仕事や働き方の創出
- 交流による化学反応→新たなプロジェクト展開
- 里海のブランド化 等

仕組みづくりの事例：香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム

漁師さんがボランティアで持ち帰ったごみを行政が運搬・処理する。行政(内陸部を含む全市町と県)が処理費用を負担する、全県的なシステムを構築。



H26.5.12 瀬戸内漁業協同組合における回収

香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム

海底堆積ごみは、回収・処理責任が法的に明確でなく、全国的にほぼ手つかずの状況。

しかし、瀬戸内海の海底には、既に13,000トン以上ものごみが堆積。その多くは生活ごみであることから、海のない内陸部まで巻き込んだ全県的なシステムを構築。



漁師さんが網に引っかかったごみをボランティアで持ち帰る

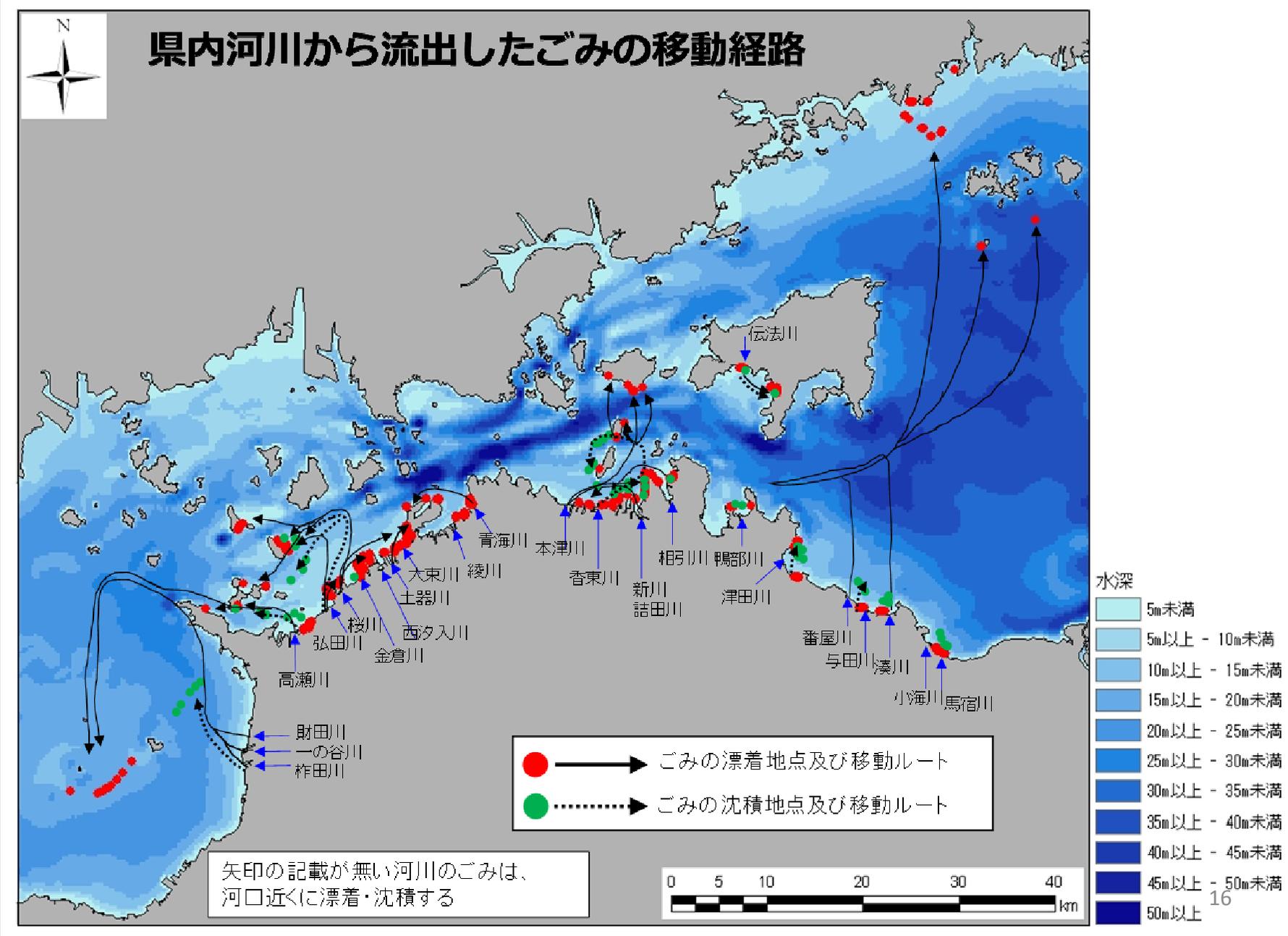


行政(沿岸市町と県)が運搬・処理する



行政(内陸部を含む全市町と県)が処理費用を負担する

ごみの漂流予測シミュレーション結果



離島の海ごみ回収・処理システム(H27~)

離島の海ごみツアー「瀬戸内海・離島の海ごみ物語」

海ごみが漂着しやすいが回収**困難**な離島において
海ごみを**資源**として商品開発→定期的に回収・処理できる**システム構築**

女木島編: 11月14日~15日
粟島編: 11月28日~29日



連携の例

取り組み	大学の関わり	民(産)・公
かがわ「里海」づくり協議会	参画団体、座長 アドバイザー(県内外) ワーキング(教授・准教授)	農・林・水産業組合 経済同友会、観光協会 連合自治会、PTA、 国・県関係課・市長会・町村会ほか
かがわ「里海」づくりビジョン	ワークショップ(学生、教授)	編集者、マーケッター、デザイナー、 県関係課ほか
王越での活動拠点づくり	サポーター(学生)、 監査(准教授)	地元住民団体、県・市 (地元の企業協力)
ネットワーク化	学生、教授、流域大学 のボランティアサークル	県・市、企業(里海研修)
基本モデルの構築 (調査研究)	共同研究	漁協(活動)、県関係課
かがわ里海大学(仮称)	参画団体、大学内での 講義、講師(検討中)	企業の寄付講座ほか(検討中)
離島の海ごみツアー	サポーター(学生、教授) ※旅のしおり作成等	旅行会社、漁協、地元アーティスト、 県・市ほか(東京の企業協力)

We are 里海人!



1000年先の未来へ。

美しい里、豊かな海



satoumi
project

Seto Inland Sea, Kagawa